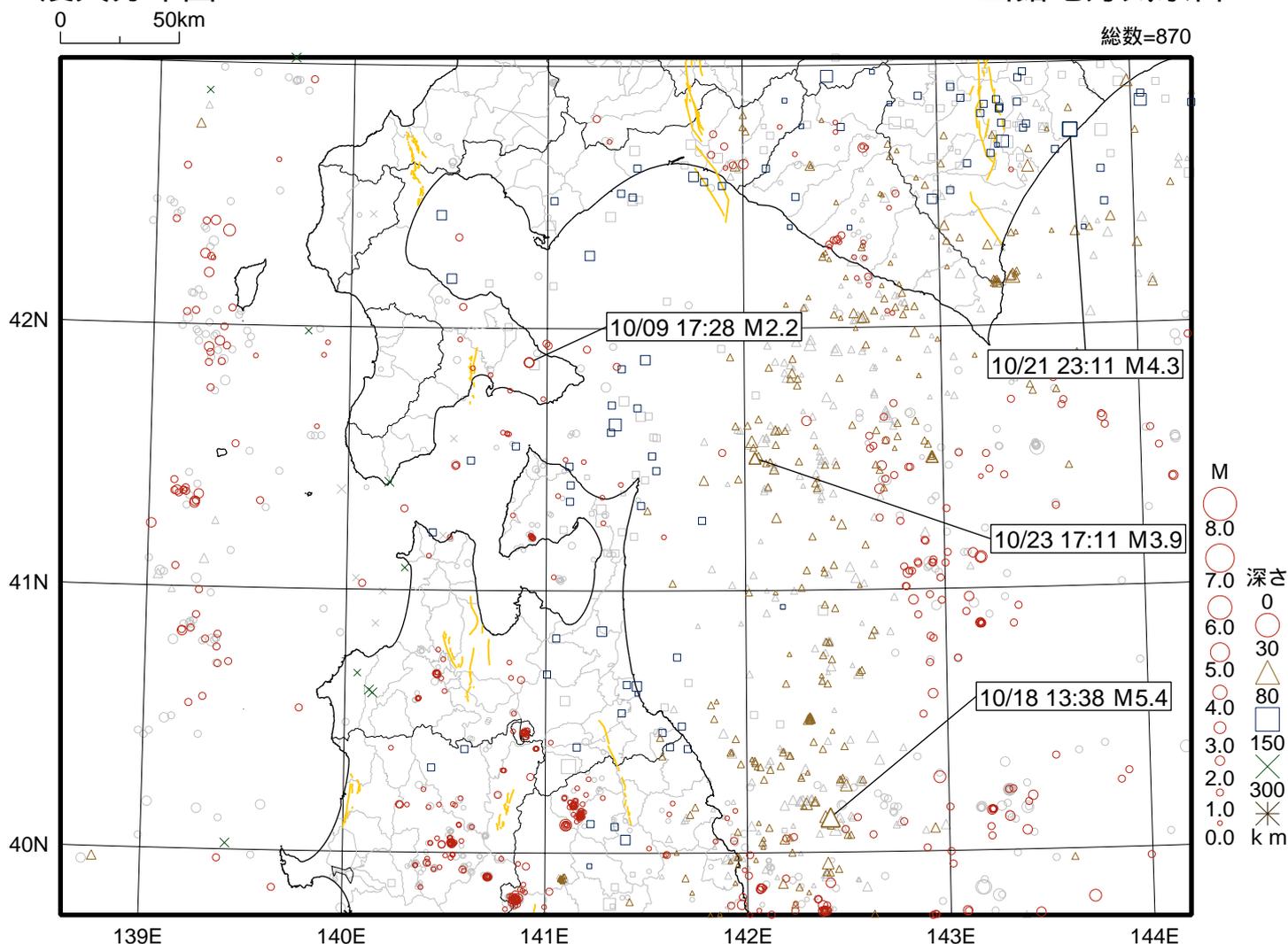


渡島・檜山地方の地震活動図

2024年10月1日～2024年10月31日

震央分布図

函館地方気象台



地震概況（2024年10月）

この期間、渡島・檜山地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は4回（9月は3回）でした（詳細は「渡島・檜山地方で震度1以上を観測した地震の表」参照）。

9日17時28分、渡島地方東部の地震(M2.2、深さ7km)により、函館市川汲町で震度1を観測しました。

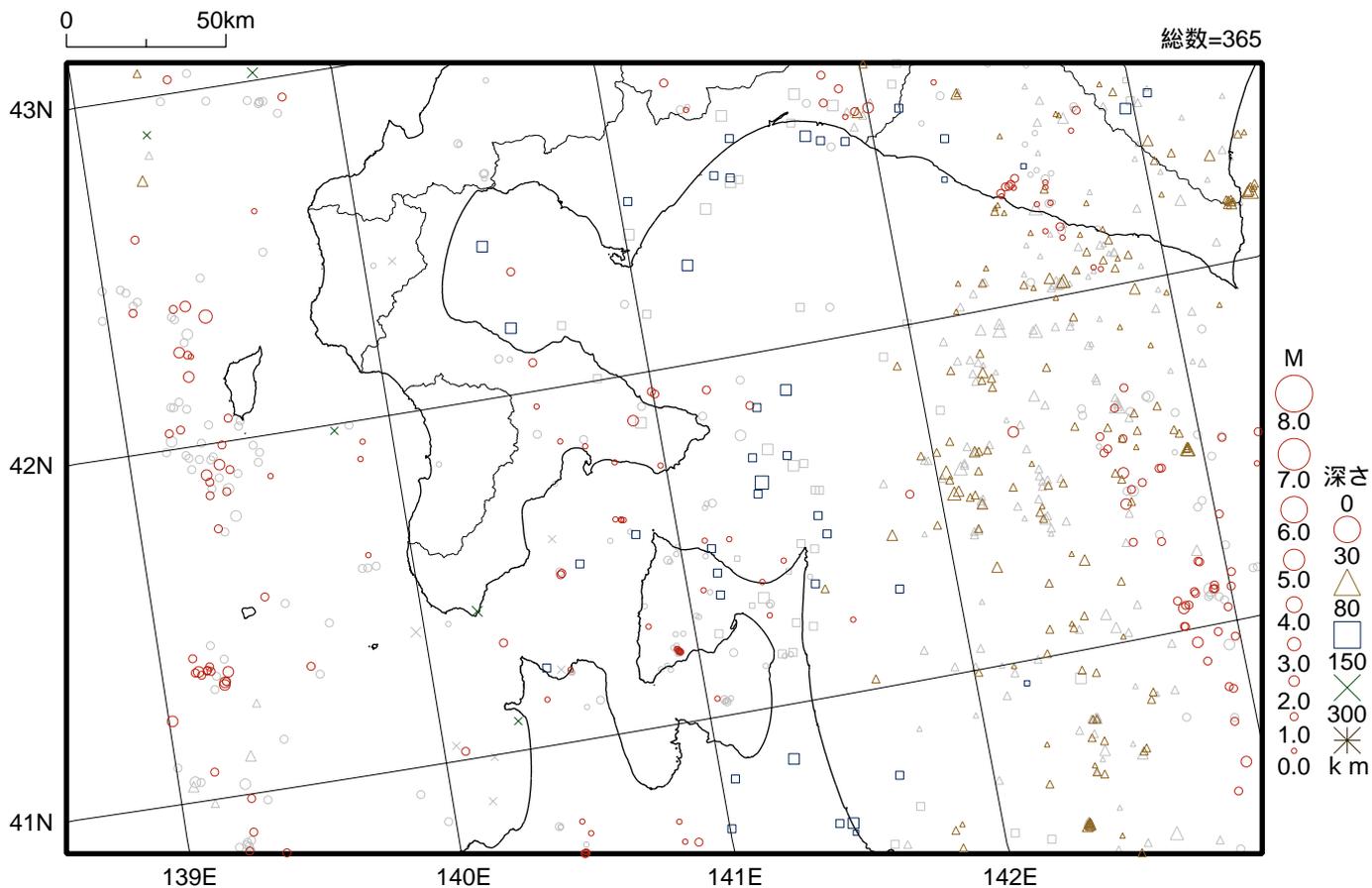
18日13時38分、岩手県沖の地震(M5.4、深さ40km)により、函館市泊町で震度2を観測したほか、函館市新浜町、函館市川汲町で震度1を観測しました。

21日23時11分、十勝地方中部の地震(M4.3、深さ111km)により、函館市泊町、函館市新浜町で震度1を観測しました。 情報発表に用いた震央地名は〔十勝沖〕です。

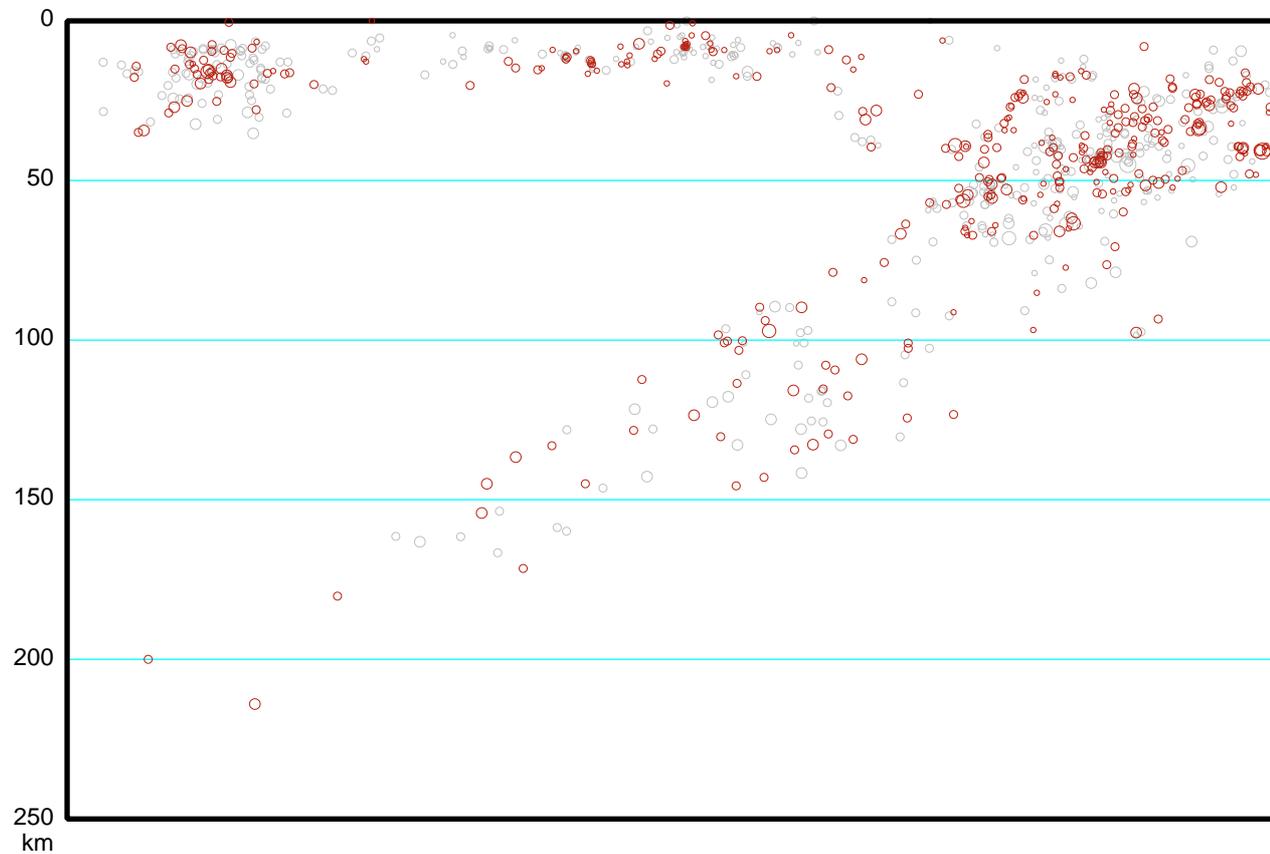
23日17時11分、青森県東方沖の地震(M3.9、深さ56km)により、函館市泊町で震度1を観測しました。

2024年10月1日 ~ 2024年10月31日

震央分布図



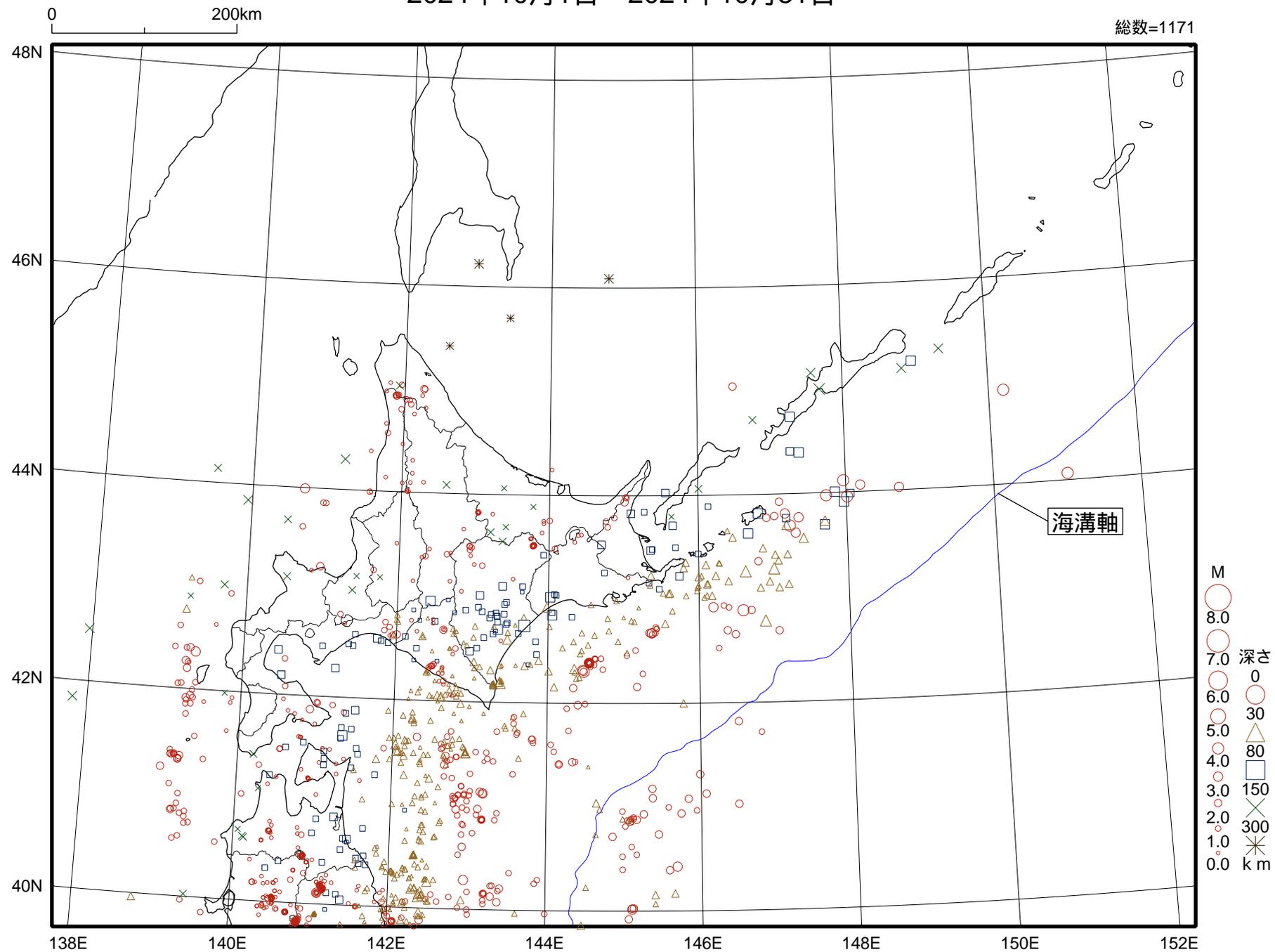
断面図



北海道の地震活動図

2024年10月1日 ~ 2024年10月31日

震央分布図



渡島・檜山地方で震度 1 以上を観測した地震の表 (2024年10月)

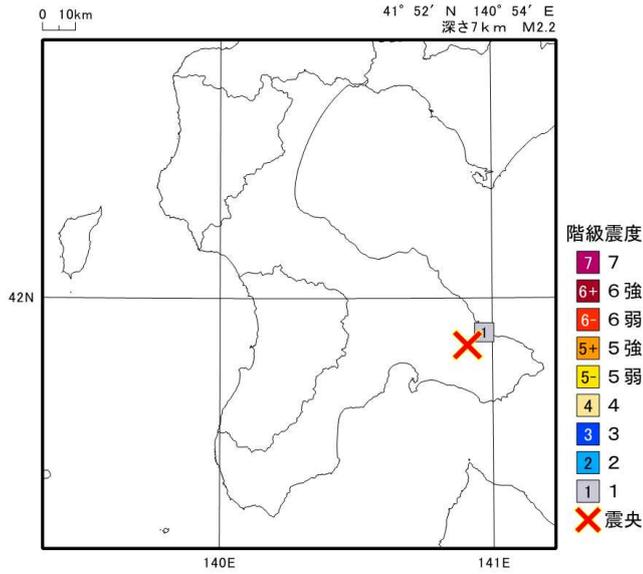
| 年 月 日 地方 | 時 分 震度 | 震央地名 震度観測点名 | 北緯 (N) | 東経 (E) | 深さ (km) | 規模 (M) |
|---------------------|------------------------|---|-------------|--------------|---------|--------|
| 2024年10月 9日 渡島地方 | 17時28分 震度 1 | 渡島地方東部 函館市川汲町 * (10) | 41 ° 52.2 N | 140 ° 54.5 E | 7 km | M2.2 |
| 2024年10月18日 渡島地方 | 13時38分 震度 2 震度 1 | 岩手県沖 函館市泊町 * (18) 函館市新浜町 * (14) 函館市川汲町 * (05) | 40 ° 07.9 N | 142 ° 24.7 E | 40 km | M5.4 |
| 2024年10月21日 渡島地方 | 23時11分 震度 1 | 十勝地方中部 函館市泊町 * (08) 函館市新浜町 * (11) | 42 ° 44.3 N | 143 ° 41.0 E | 111 km | M4.3 |
| 2024年10月23日 渡島地方 | 17時11分 震度 1 | 青森県東方沖 函館市泊町 * (07) | 41 ° 30.2 N | 142 ° 03.0 E | 56 km | M3.9 |

* のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。
()内の数値は0.1単位の詳細な震度 (計測震度) の小数点を省略して表しています。

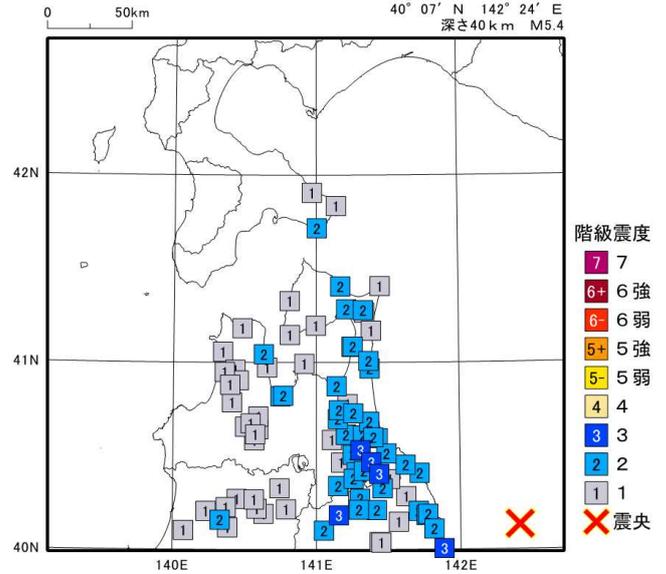
計測震度と震度階級の関係

| | | | | | | | | | | |
|------|------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|------|
| 計測震度 | ~0.4 | 0.5~1.4 | 1.5~2.4 | 2.5~3.4 | 3.5~4.4 | 4.5~4.9 | 5.0~5.4 | 5.5~5.9 | 6.0~6.4 | 6.5~ |
| 震度階級 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5弱 | 5強 | 6弱 | 6強 | 7 |

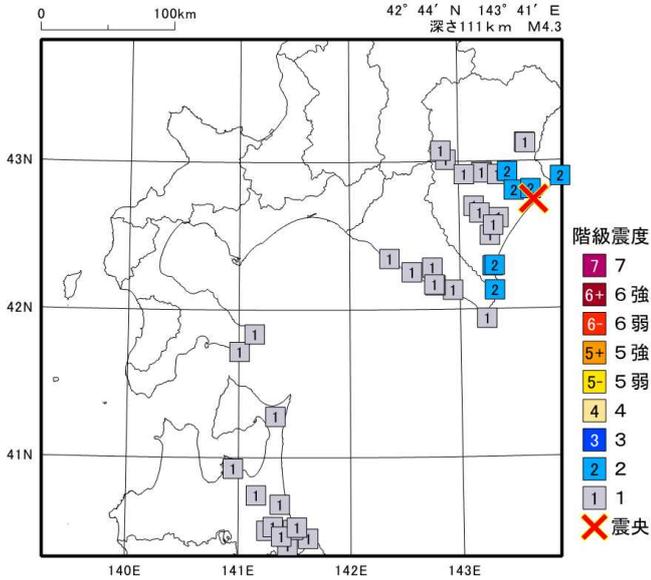
2024年10月9日17時28分 渡島地方東部の地震の震度分布図



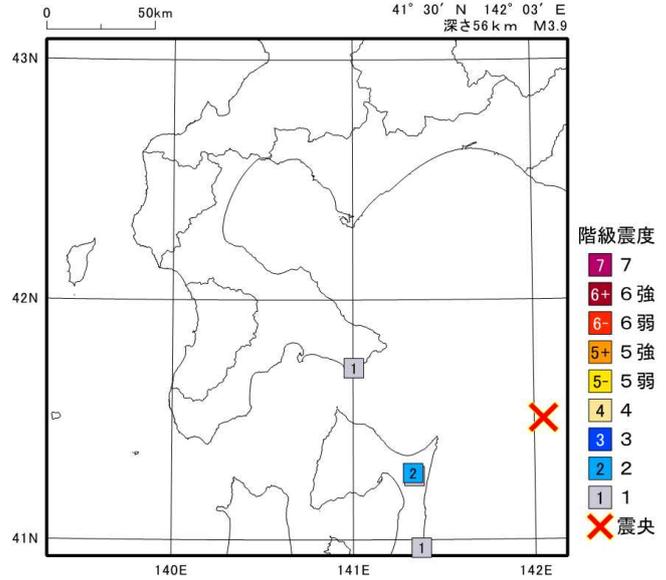
2024年10月18日13時38分 岩手県沖の地震の震度分布図



2024年10月21日23時11分 十勝地方中部の地震の震度分布図



2024年10月23日17時11分 青森県東方沖の地震の震度分布図



本資料の利用にあたって

- ・ 本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- ・ 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- ・ 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・ 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

【防災メモ】

～陸域の浅い地震～

地球の表面は十数枚の巨大な板状の岩盤（プレート）で覆われており、それぞれ別々の方向に年間数cmの速度で移動しています。

日本列島周辺では、複数のプレートがぶつかり合うため、大きな力がかかり岩盤にひずみが蓄えられます（図1）。そのひずみが限界に達したとき岩盤が急速にずれ動きます。これが地震です。

地震は、海溝沿いでプレート境界や海のプレート内部で発生する「海溝型地震」のほか、陸域の浅い所でも発生します。この地震を「陸域の浅い地震」と呼びます（図2）。

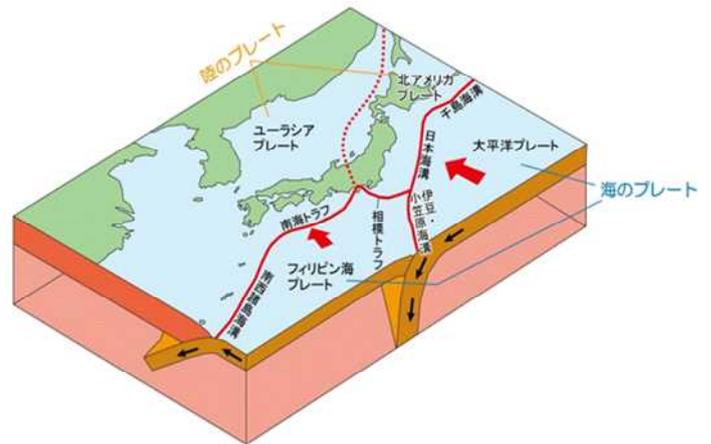


図1 日本列島周辺のプレート

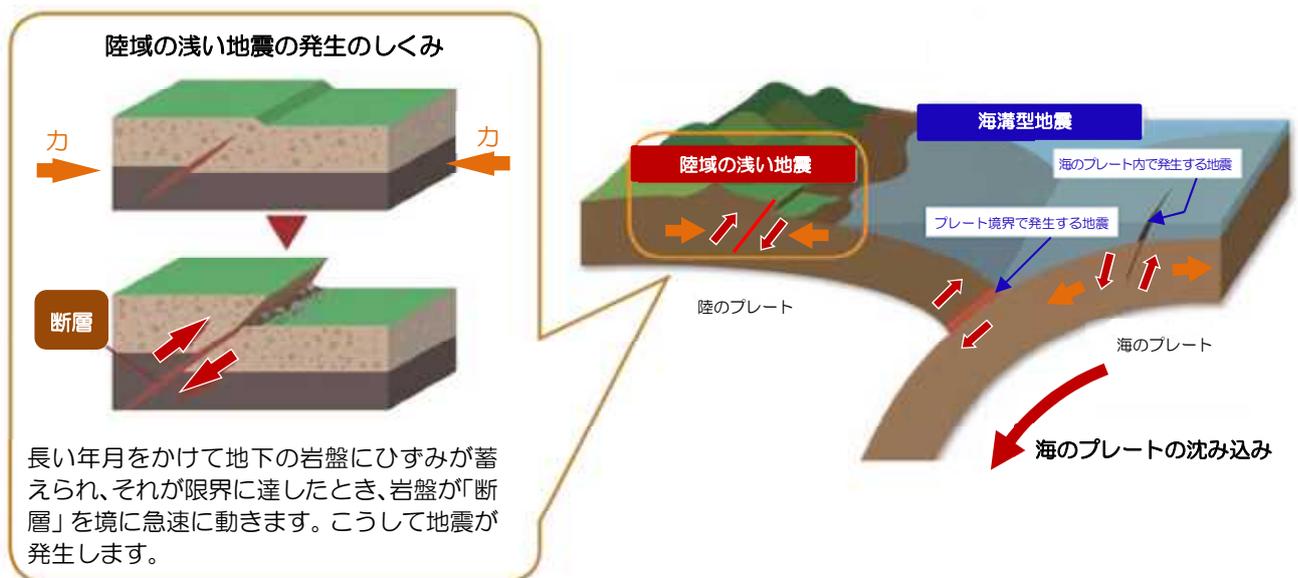


図2 日本列島周辺で発生する地震のタイプ

「陸域の浅い地震」は、地震の規模（マグニチュード）が比較的小さくても震源の直上では揺れが強くなるため、人の住む場所で発生すると局所的に大きな被害が生じる場合があります。

2018年（平成30年）9月6日に発生した「平成30年北海道胆振東部地震」はマグニチュード6.7と、「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」のマグニチュード9.0に比べて地震のエネルギーは2800分の1でしたが、最大震度は同じ7を観測しました。この強い揺れで、大規模な土砂崩れにより多くの人命が失われ、また、地盤の液状化による住家倒壊、北海道内のブラックアウト（全域停電）などの大きな被害が生じました。

地震はいつ起きるかわかりません。突然の揺れに備えて日頃から家具の固定や身の安全を図る行動の確認をしておきましょう。